

第2章

横芝光町の現況

1. 横芝光町の概況
2. 人口動向
3. 土地利用
4. 交通体系
5. 防災・経済
6. 住民意向

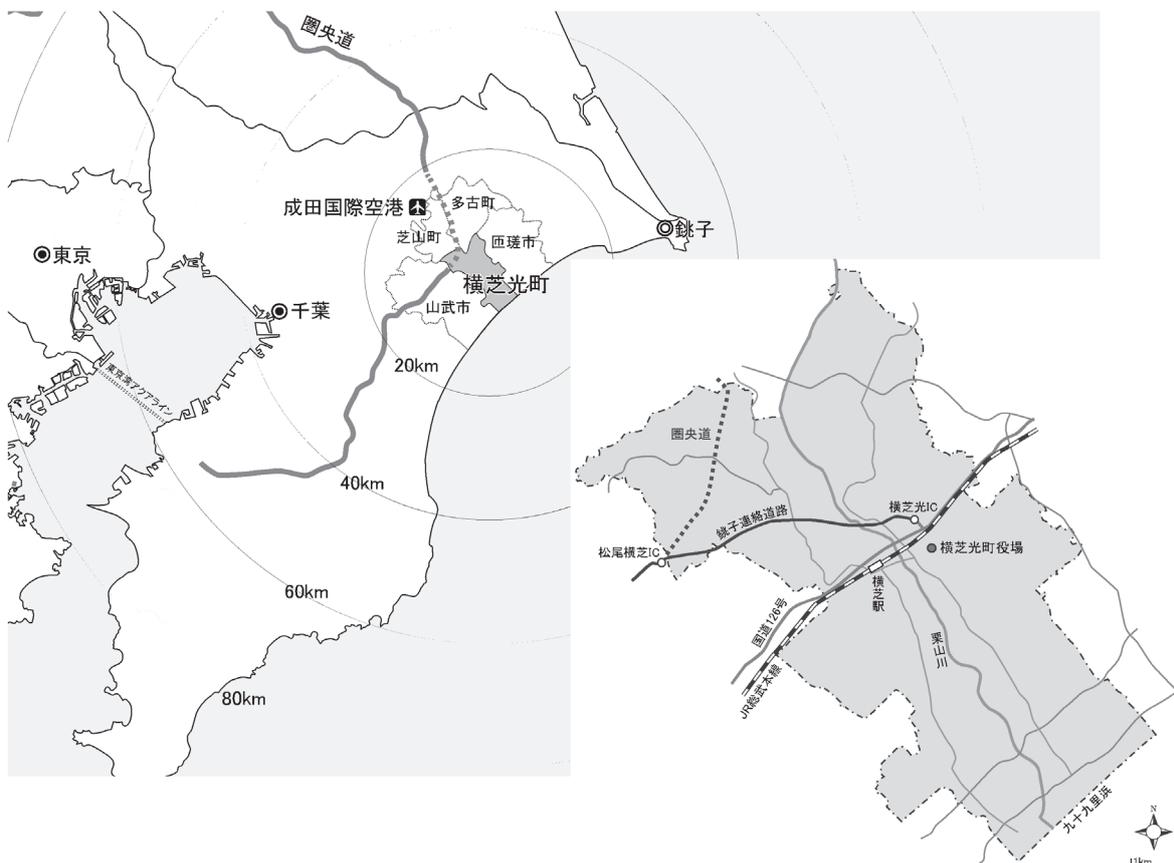
第2章 横芝光町の現況

1 横芝光町の概況

本町は、千葉県北東部に位置し、東京都心から約 70km、千葉市から約 40km、成田国際空港（以下、「成田空港」という。）から約 20km の距離にあります。形状は東西約 5km、南北約 14km と南北に細長く、面積は 67.01 ㎢で、東は匝瑳市、西は山武市、北は山武郡芝山町、香取郡多古町に隣接しています。

南は九十九里浜が広がり、太平洋に面しており、中央部から南部にかけては平坦地が続き、北部は台地を形成しています。また、かつて上総、下総の国境でもあった、九十九里平野における最大の河川栗山川が、中央部を北から南に向けて流れています。

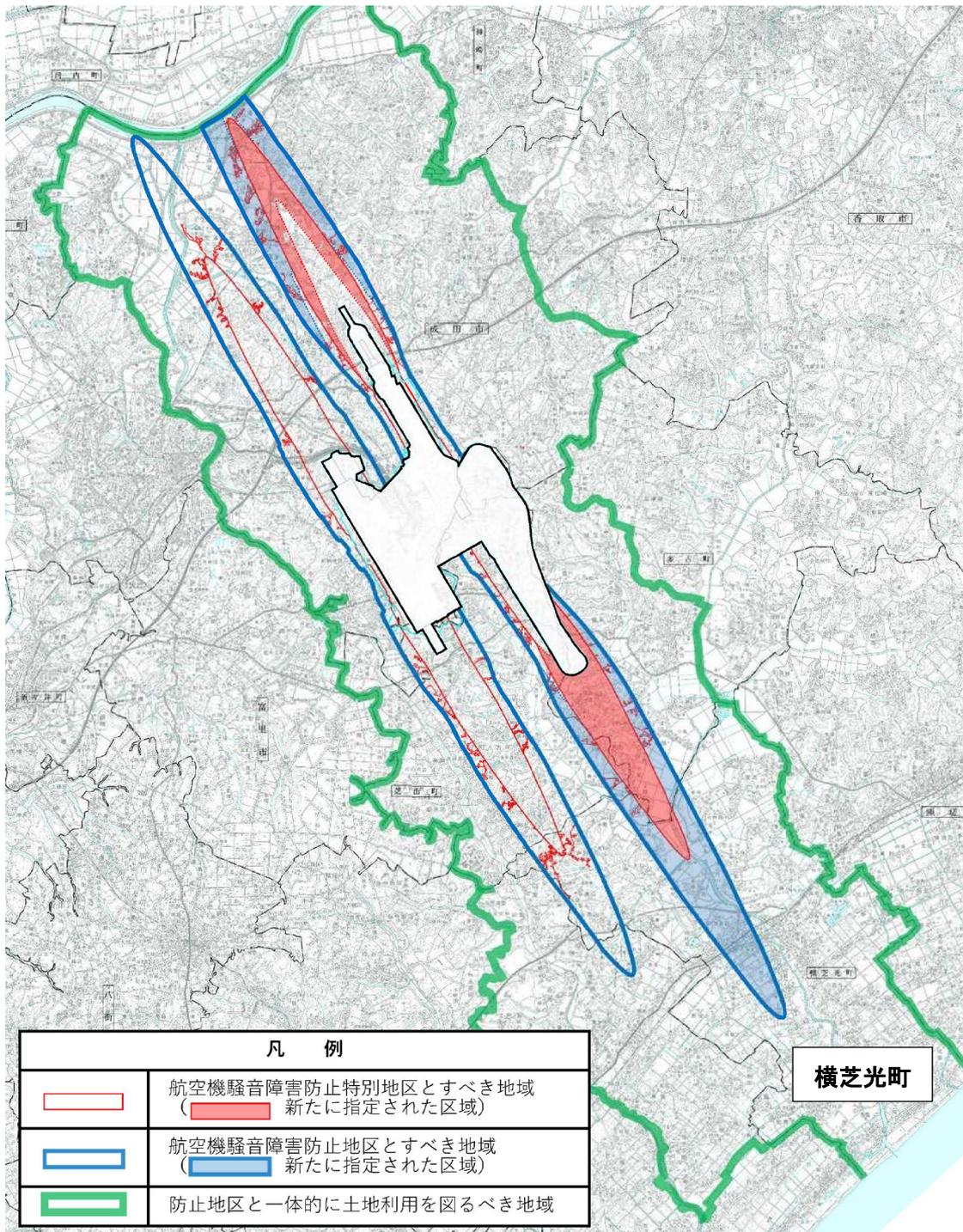
町の位置



また、本町は成田空港周辺地域にあたり、国土交通省、千葉県、空港周辺9市町（横芝光町含む）及び成田国際空港株式会社は、「成田空港に関する四者協議会」を開催し、協議を重ねた結果、滑走路の増設などを含めた成田空港の更なる機能強化について、実施することを四者で合意し、確認書を締結しました。2028年度末の供用を目指し、協議等を進めています。

本町においては、航空機騒音障害防止地区(町北部の一部は航空機騒音障害防止特別地区)が町北部から中心市街地にかけて新たに指定されています。

航空機騒音障害防止地区及び航空機騒音障害防止特別地区の概要図



出典：国交省資料

本町においては航空機騒音というマイナス要素を払拭する「住みたいと思える・利便性を実感できる町づくり」、「成田市周辺を日常生活圏と未来に夢と希望を持つことができる町づくり」に向け、国、千葉県、成田国際空港株式会社に対し地域振興に向けた以下の取組を要望しており、今後、森林や農地において都市的土地利用への転換が促進される可能性があります。

地域振興に向けた主な要望事項

- ・芝山鉄道の芝山千代田駅から JR 横芝駅までの延伸
- ・JR 総武本線の横芝駅発着便の増加等
- ・成田国際空港へ直結する道路整備等
- ・工業団地の誘致
- ・空港関連企業の誘致
- ・公共機関等の誘致
- ・国営土地改良事業の実施
- ・栗山川及び高谷川の河川改修等の治水対策
- ・成田用水施設機能強化(水資源機構更新事業)



横芝光町から成田空港方面を望む

2 人口動向

(1) 人口・世帯数の推移

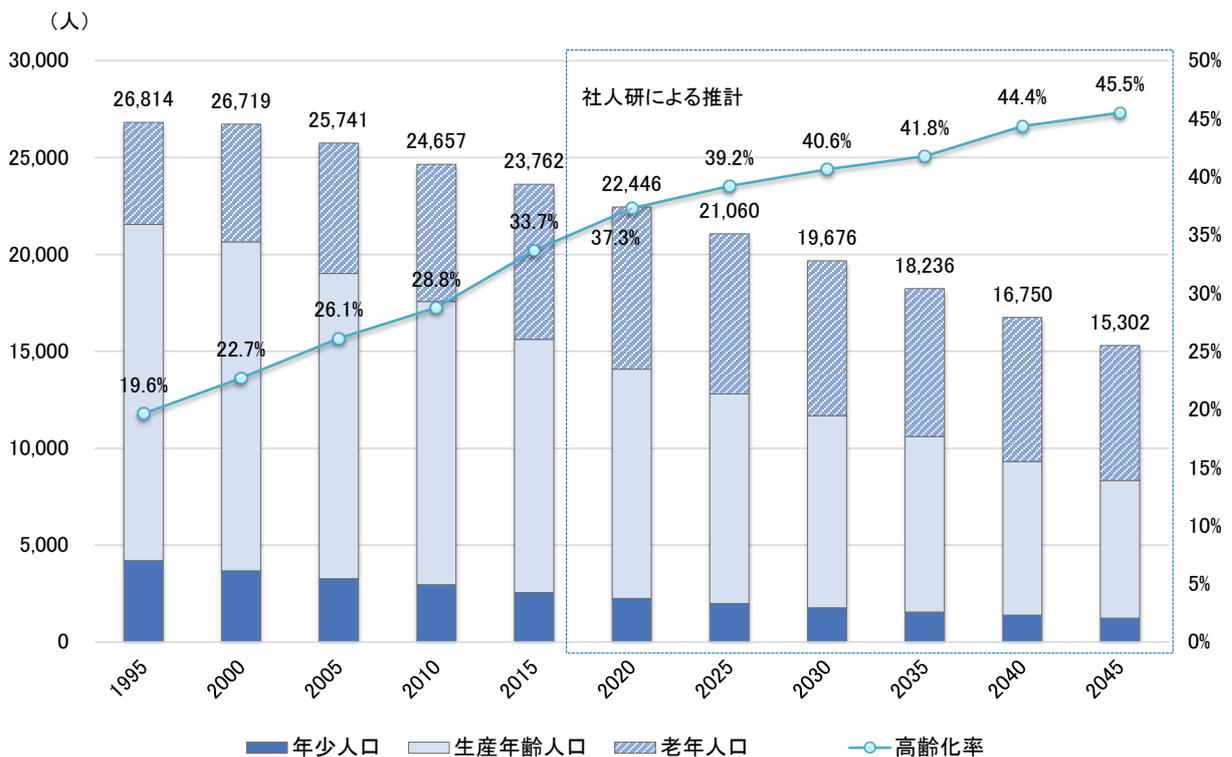
本町の人口は、20年間一貫して減少傾向にあり、2015年の人口は23,762人となっています。

2015年以降の国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による人口推計によれば、今後も人口は減少を続け、2025年には約2万人、2040年には約1万7千人になるものと推計されています。

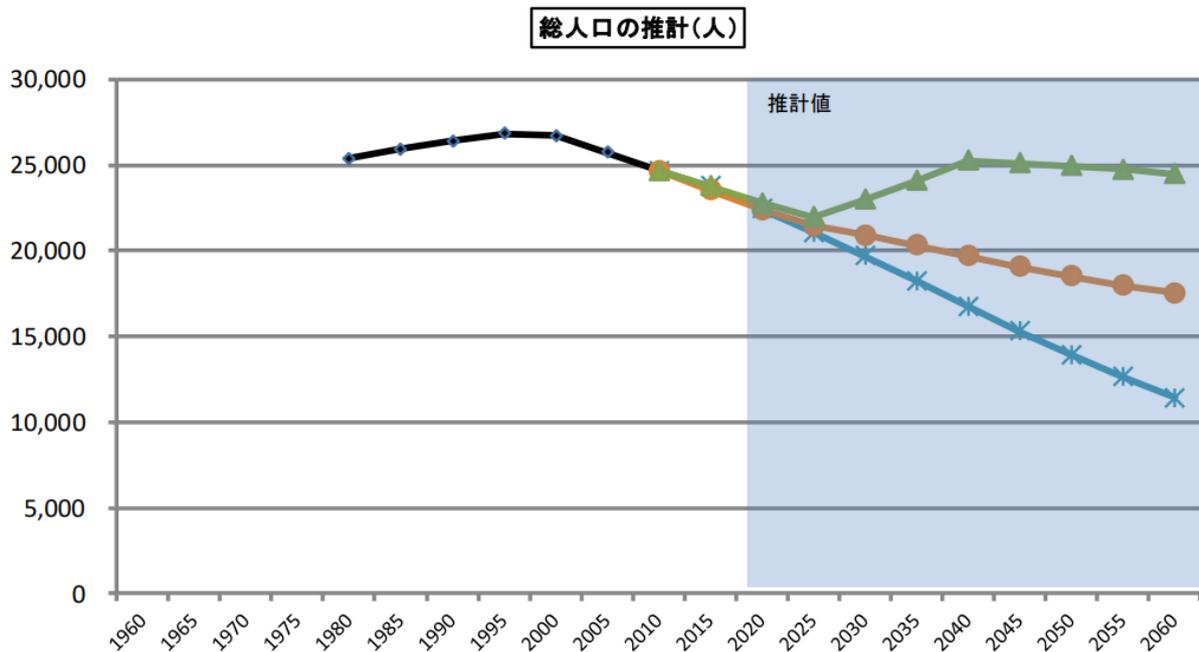
年齢3区分別人口を見ると、年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）ともに減少傾向となっており、今後も続くものと推計されています。一方で老年人口（65歳以上）は増加、あるいは微減することが推計されており、高齢化率は一貫して増加することが推計されています。

一方、成田空港の更なる機能強化により、空港内外で約6.4万人の雇用の増加が見込まれており、本町においても就業者等の定住のチャンスを迎え、令和2年3月に策定した第2期横芝光町人口ビジョンでは、成田空港内・外の新規就業者数のうち3%が町へ定住することを目指しています。

人口の推移（出典：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所より作成）



人口の推移（出典：第2期横芝光町人口ビジョン）



●実績 ●パターン1(社人研推計準拠) ●第1期人口ビジョンにおける推計 ▲第2期人口ビジョンにおける推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン1 (社人研推計準拠)	23,762	22,446	21,060	19,676	18,239	16,750	15,303	13,936	12,649	11,410
第1期人口ビジョンに おける推計	23,521	22,416	21,460	20,897	20,303	19,681	19,071	18,513	17,984	17,526
第2期人口ビジョンに おける推計	23,762	22,772	21,968	22,992	24,093	25,251	25,096	24,933	24,745	24,483

※それぞれの人口推計方法は以下のとおり。

パターン1 : 全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計(社人研推計準拠)

第1期人口ビジョンにおける推計：合計特殊出生率が国の長期ビジョンで示された2030年(平成42年)に1.8まで上昇、以降1.8を維持し、純移動数を2025年までの5年間で200人の転入超過、2030年以降は5年間で400~500人の転入超過が維持され、それ以降も概ね同水準で推移すると仮定した推計

第2期人口ビジョンにおける推計：第1期人口ビジョンにおける推計の考え方に、成田空港内・外の新規就業者(就業者割合を3%まで引き上げると仮定)を見込んだ推計

成田空港の更なる機能強化に伴う成田空港周辺9市町の雇用効果

9市町合計	うち空港内	うち空港外
6.4万人	1.7~3.2万人	3.2~4.7万人

注1：9市町合計(6.4万人)は成田空港による9市町への経済波及効果(約1兆円)をベースに算出

注2：うち空港内(1.7~3.2万人)は、過去の航空機発着回数と空港内従業員を変数とした回帰分析で算出

注3：うち空港外(3.2~4.7万人)は9市町合計(6.4万人)とうち空港内(1.7~3.2万人)の差

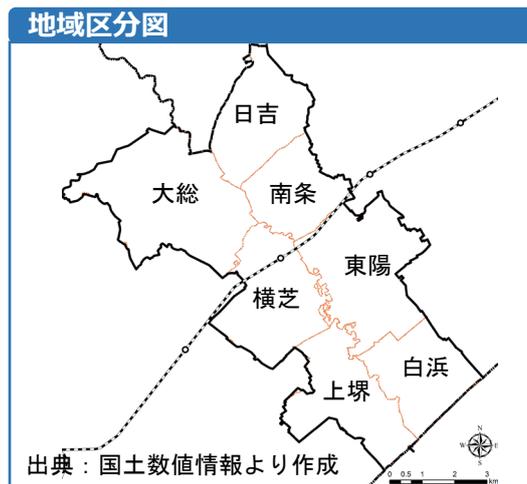
出典：成田空港周辺の地域づくりに関する「実施プラン」より作成

(2) 地域別人口動向

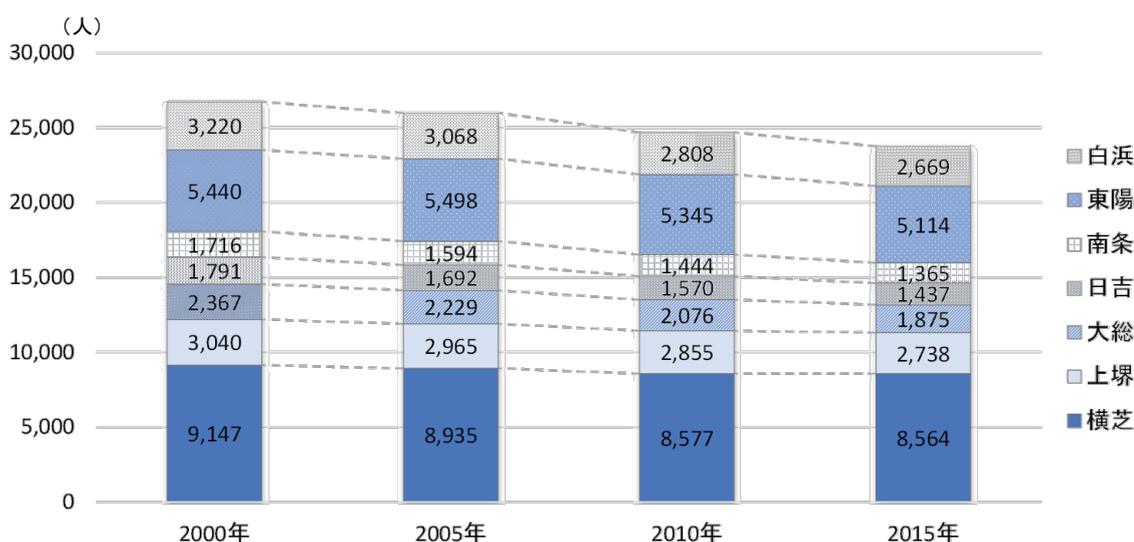
地域別の人口動向を見ると、横芝地区が最も多くの人口を有しており、南条地区で最も人口が少なくなっています。

2005年から2010年、2010年から2015年にかけては、すべての地区で人口減となっています。

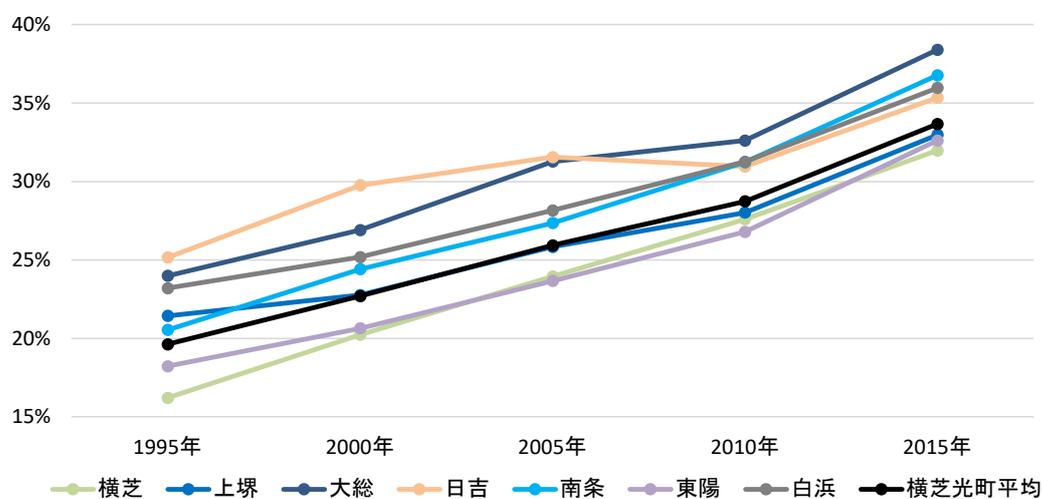
高齢化率を見ると、大総地区や南条地区など人口の少ない地域で高齢化率が高くなっており、2015年には7地区すべてが30%を上回っています。



地域別人口増減



地域別高齢化率推移

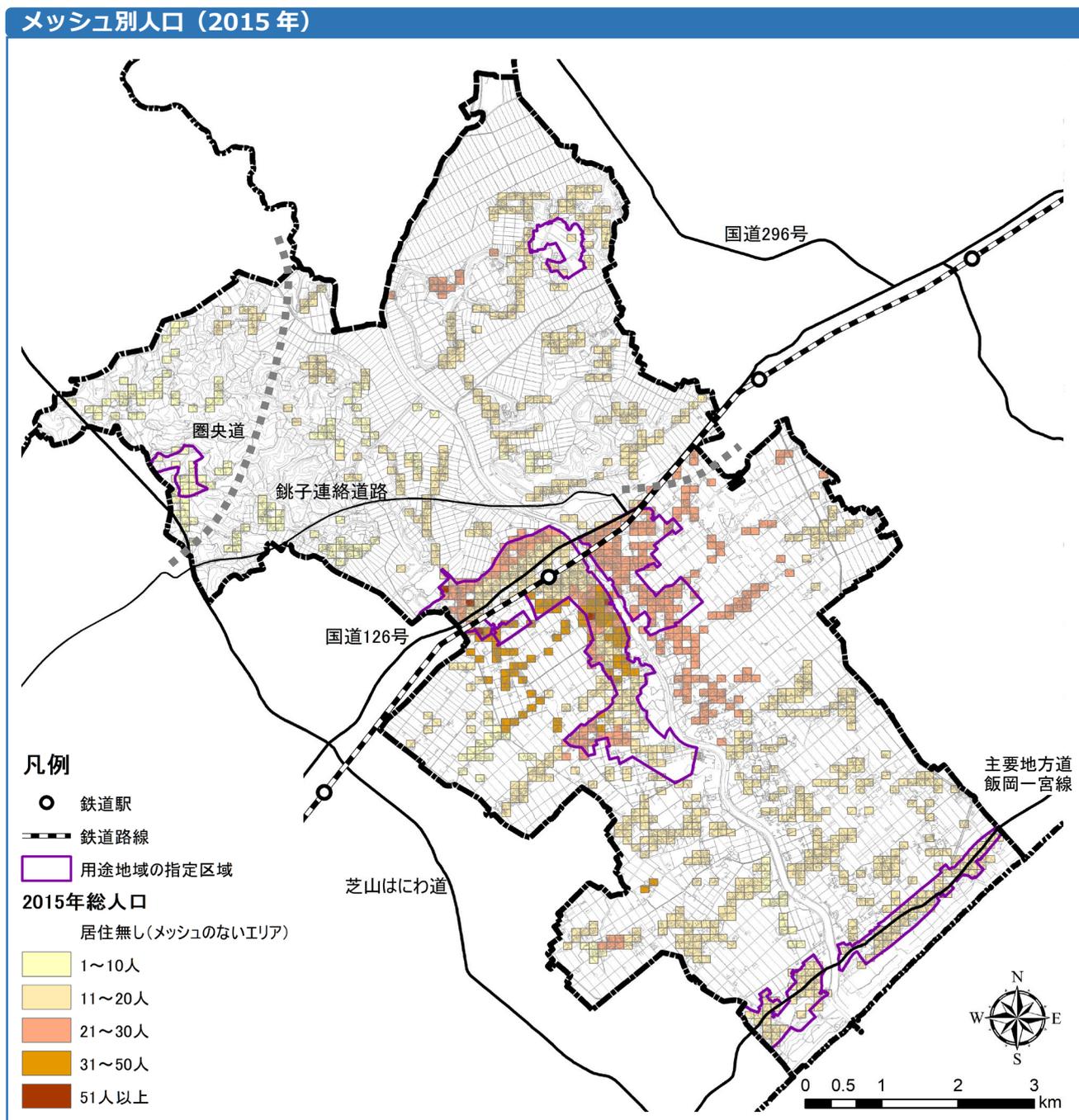


出典：国勢調査より作成

(3) 人口分布

① 人口分布

100m メッシュ別の人口分布を見ると、用途地域内を中心に人口が多く集積していますが、用途地域外の郊外部においても広く分布しています。

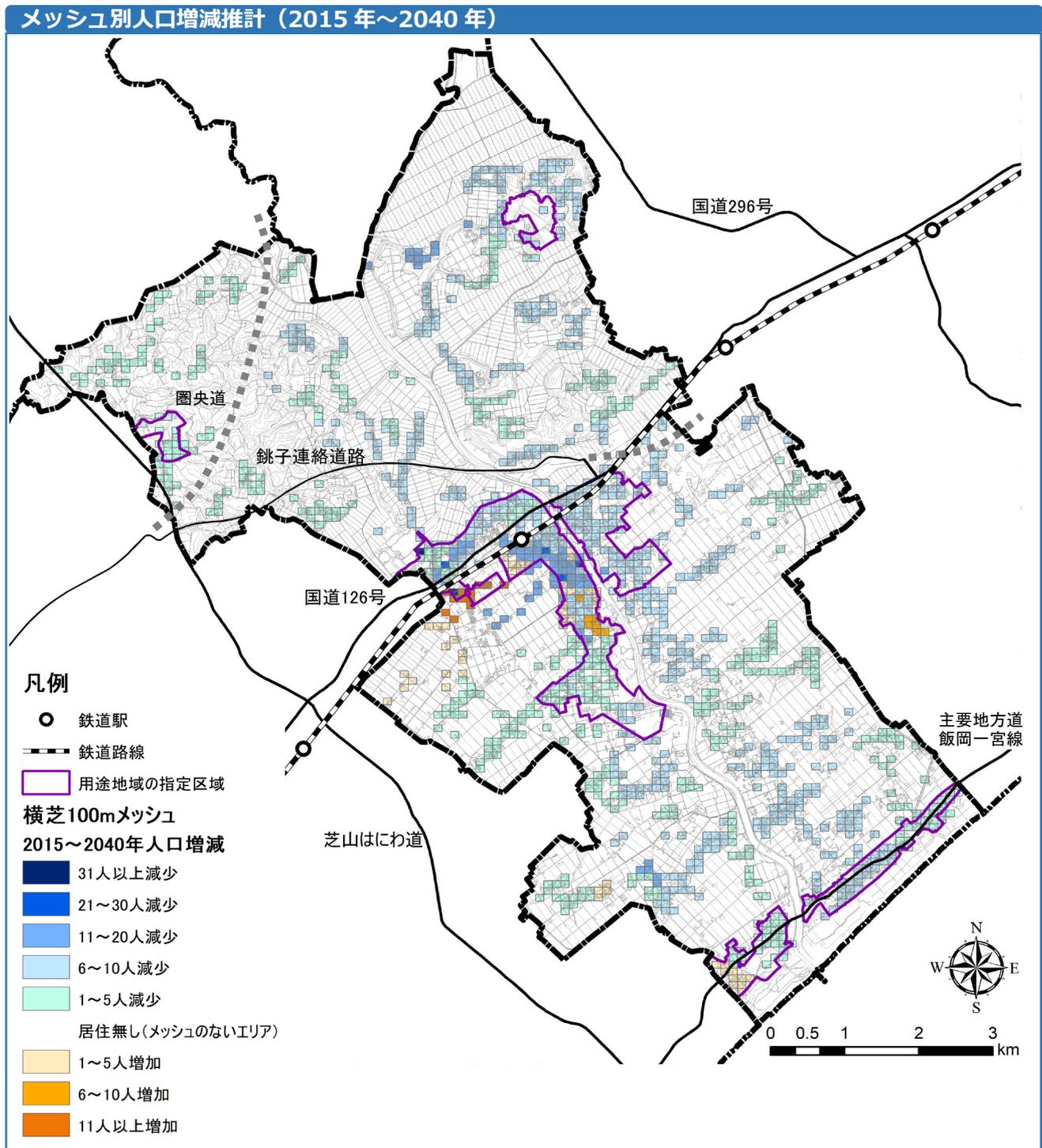


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報、G 空間情報センター 将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) より作成

② 将来人口増減推計

2015年から2040年にかけてのメッシュ別の人口増減を見ると、まちの中心部、特にJR横芝駅（以下、「横芝駅」という。）の南側において人口が減少することが推計されています。まちの中心の人口減少は市街地の活力や経済発展に影響を及ぼすことが懸念されます。また、一定の人口に支えられている商業施設等の生活利便施設の縮小・撤退を招く恐れもあることから、市街地における人口減少は大きな課題と考えられます。

用途地域外の集落においては、人口減少に伴う空き家の増加やコミュニティの衰退が懸念されます。

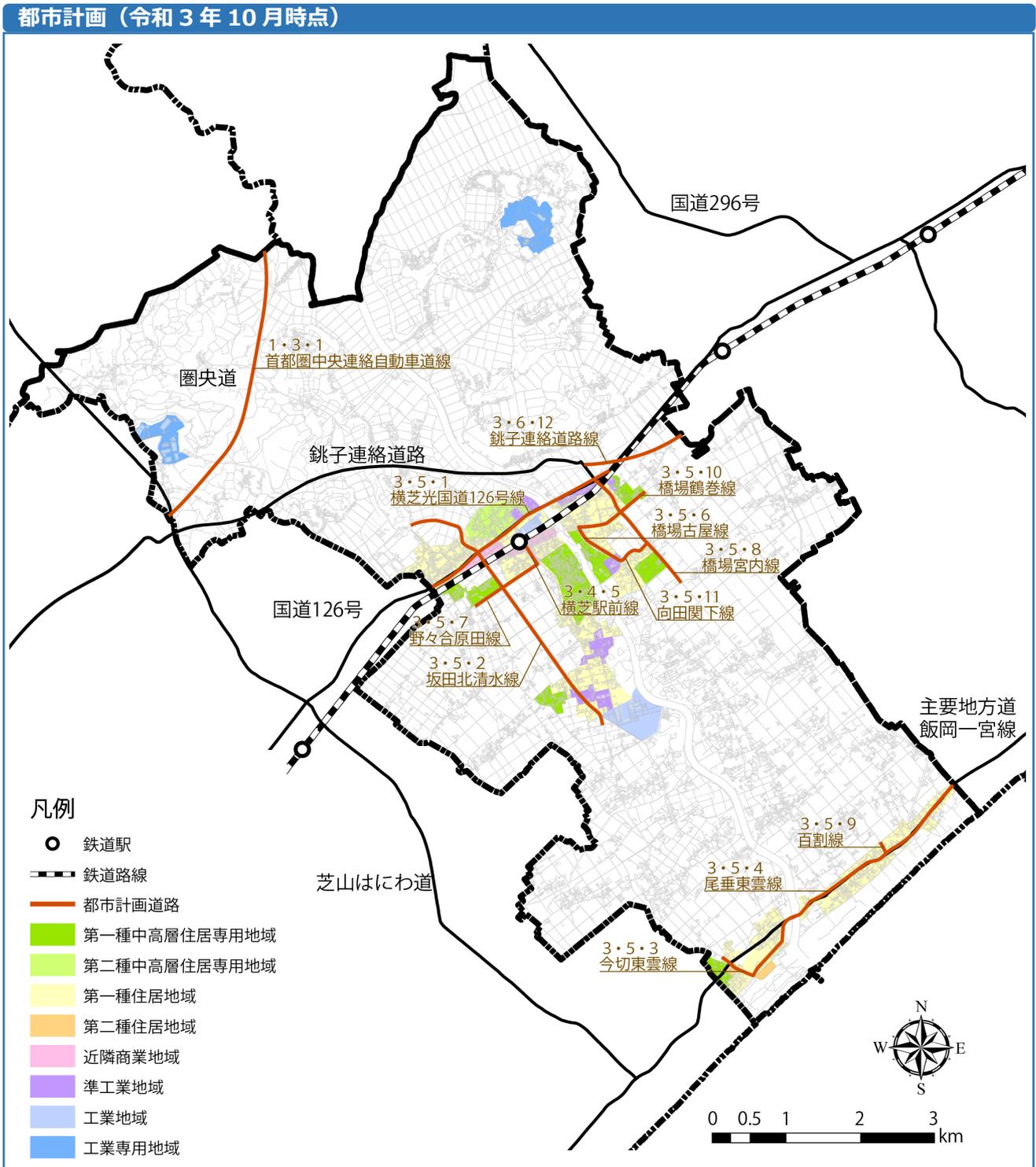


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報、G空間情報センター 将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) より作成

3 土地利用

(1) 土地利用規制

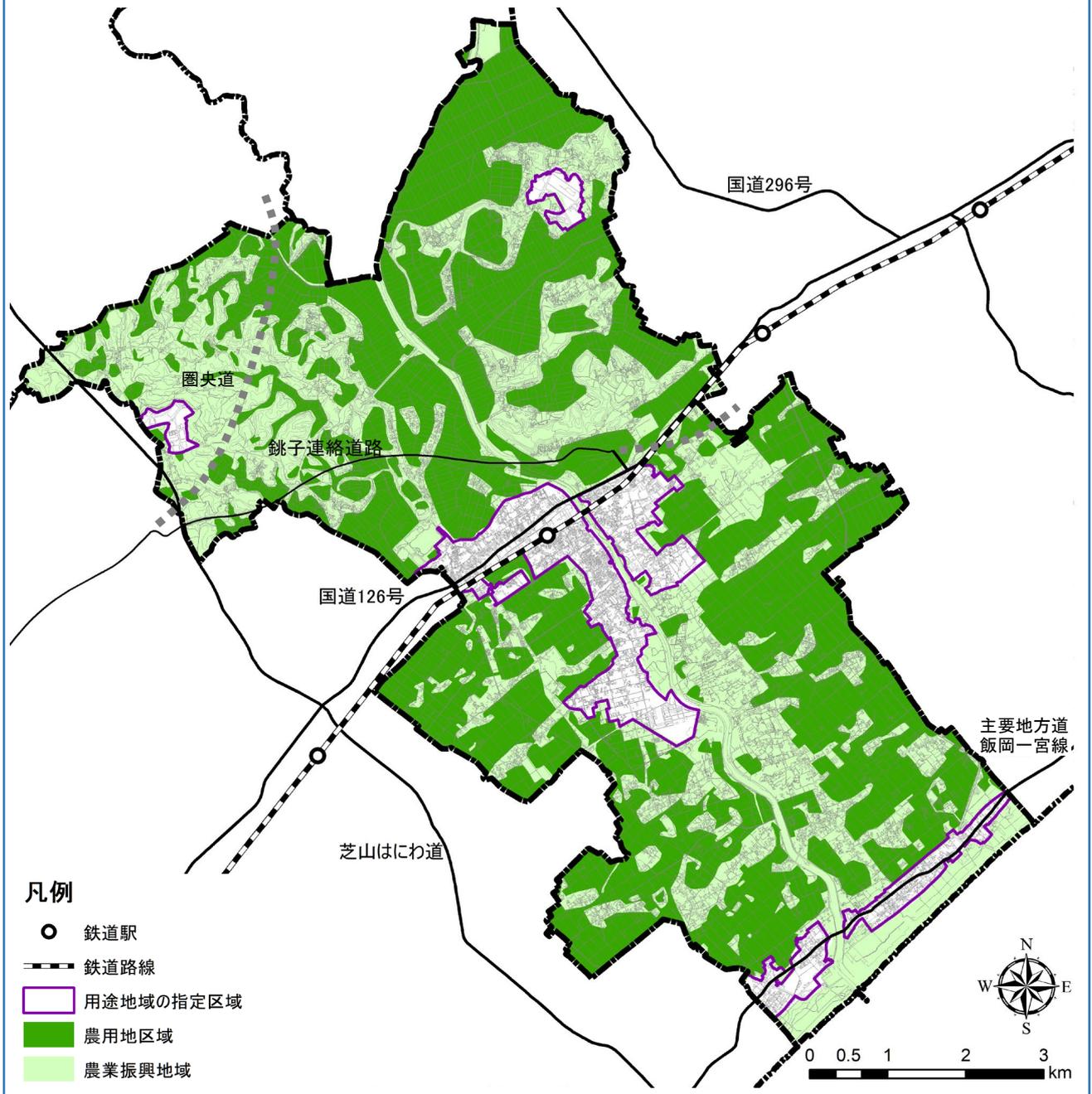
本町は非線引き都市計画区域ですが、用途地域が指定されています。町中央部の横芝駅周辺から南部にかけて住居・商業系の用途地域が広がり、その他飛び地の用途地域として、主要地方道飯岡一宮線沿線には主に第一種住居地域、町北部に工業専用地域が指定されています。



出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

用途地域の指定区域外においては農業振興地域、農用地区域が指定されています。

農業振興地域・農用地区域（令和3年10月時点）

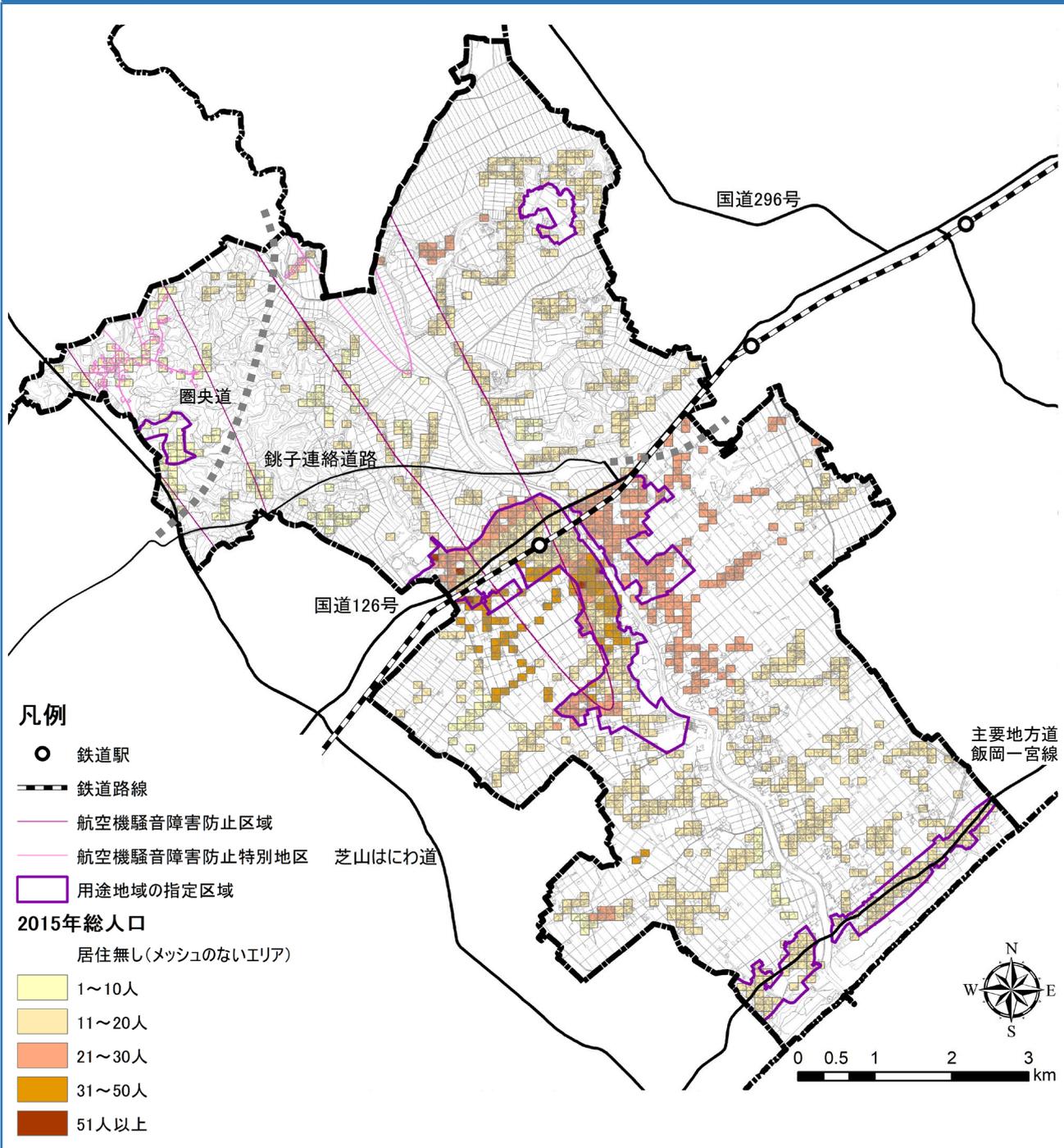


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

航空機騒音障害防止地区(町北部の一部は航空機騒音障害防止特別地区)が町北部から中心市街地にかけて新たに指定されています。航空機騒音障害防止地区では、学校、病院、住宅、保育所、その他福祉施設などを建築する場合は、防音上有効な構造とすることが義務付けされています。航空機騒音障害防止特別地区では学校、病院、住宅、保育所、その他福祉施設などを新たに建築することは原則としてできません(知事が許可した場合は建築することができます)。

航空機騒音障害防止地区及び航空機騒音障害防止特別地区と人口分布の重ね合わせを見ると、主に用途地域内において航空機騒音障害防止地区との重なりが見られることから、今後住宅用地から他用途(商業・業務地等)への転換が発生する可能性があります。また、騒音の少ないエリアへの空港関連施設の就業者等のための居住地の確保も課題となります。

航空機騒音障害防止地区・航空機騒音障害防止特別地区と2015年の人口分布

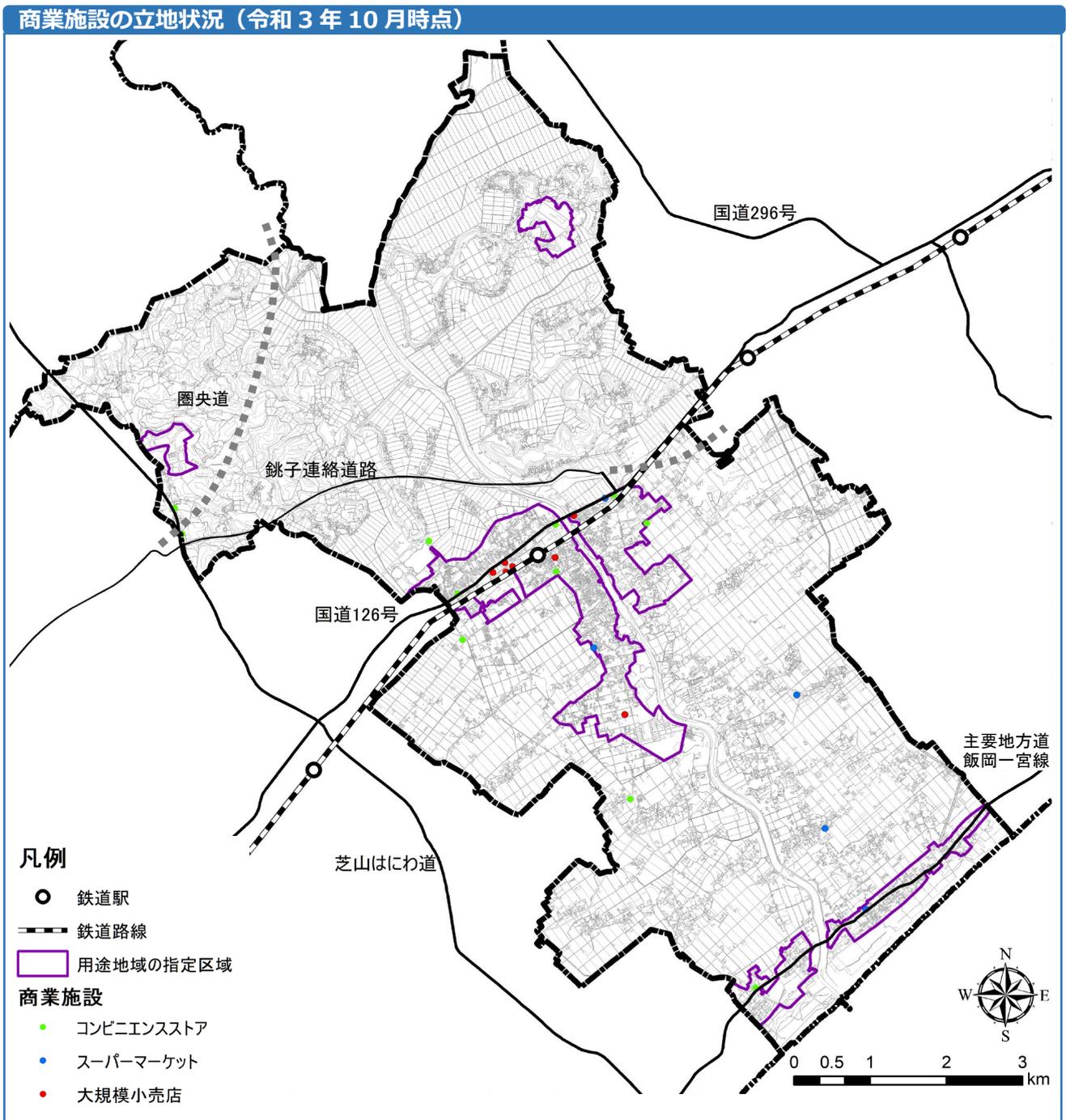


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報、G空間情報センター 将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) より作成

(2) 都市的土地利用

① 商業施設の立地

商業施設の立地状況を見ると、大規模小売店舗は交通アクセスの整った国道126号沿道を中心に立地・集積しています。スーパーマーケットは用途地域内及びその周辺を中心に立地しており、コンビニはJR総武本線以南に点在しています。

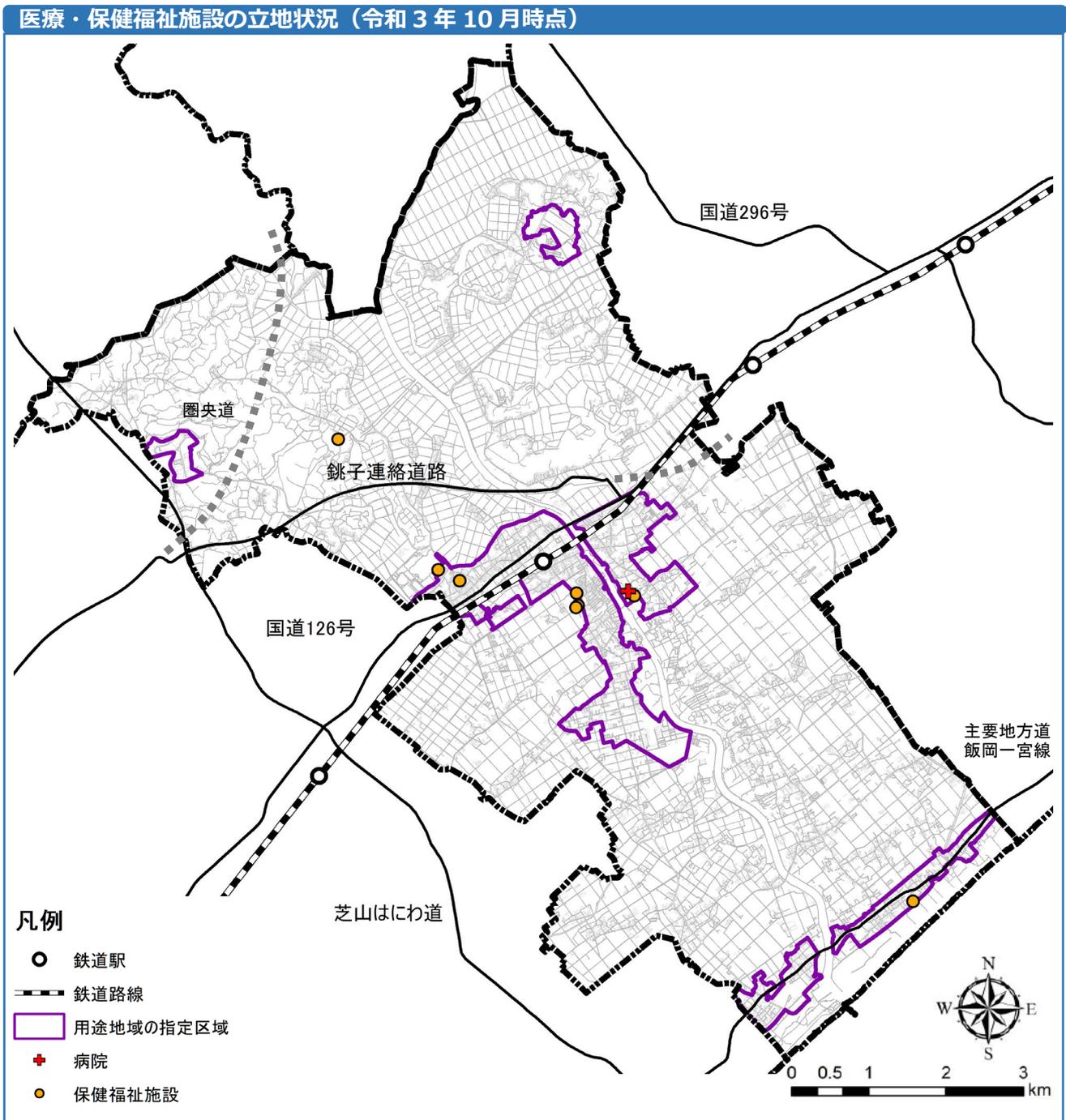


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

② 医療・保健福祉施設の立地

医療施設は救急告示病院である東陽病院が立地しています。

福祉施設は用途地域内を中心に、健康づくりセンター「プラム」や高齢者福祉施設、障害者福祉施設が点在しています。

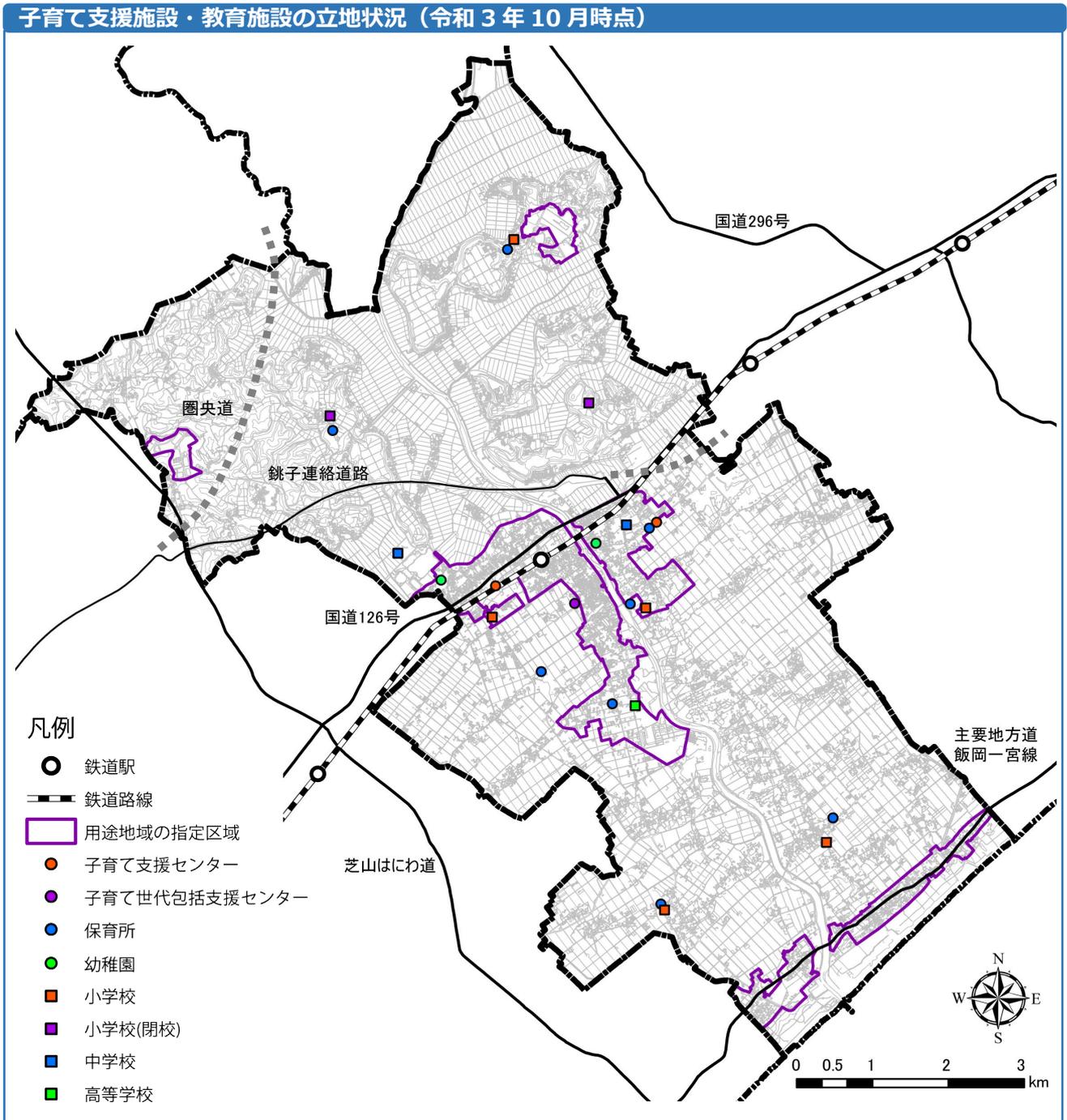


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

③ 子育て支援施設・教育施設の立地

子育て支援施設として、子育て支援センターが2箇所、子育て世代包括支援センターが1箇所、幼稚園・保育所（園）が10箇所立地しています。教育施設としては高等学校が1箇所、中学校が2箇所、小学校が5箇所立地しています。

今後人口減少に伴い、その他公共施設についても用途変更や余剰スペースが発生することが想定されており、こうした公共ストックの有効活用が重要と考えられます。

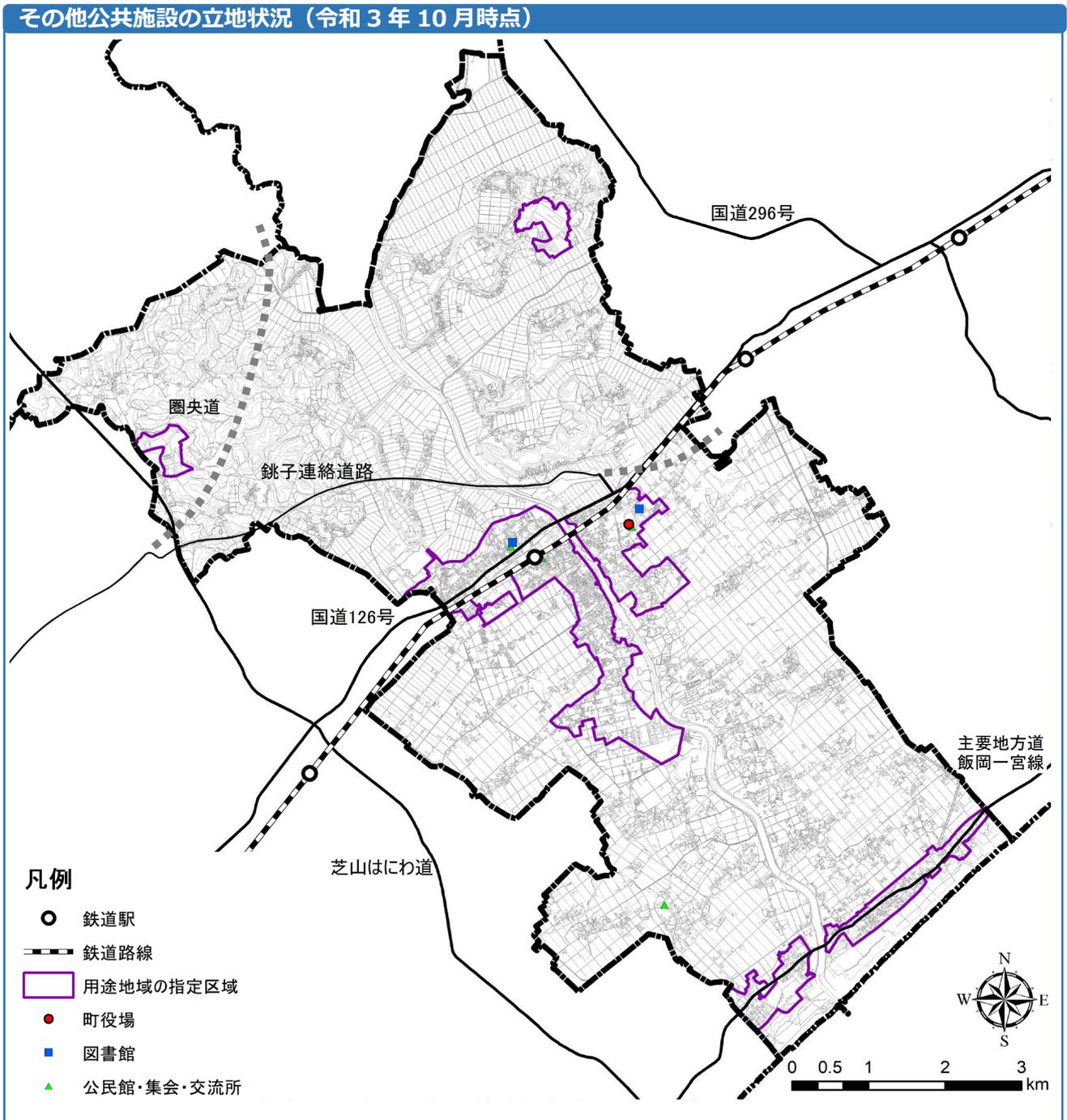


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

④ その他公共施設の立地

その他として、役場、図書館（分館含む）、横芝駅前情報交流館「ヨリドコロ」、文化会館など主要な公共施設が用途地域内に立地しています。

役場周辺は町民会館、図書館などの公共公益施設が集積しています。

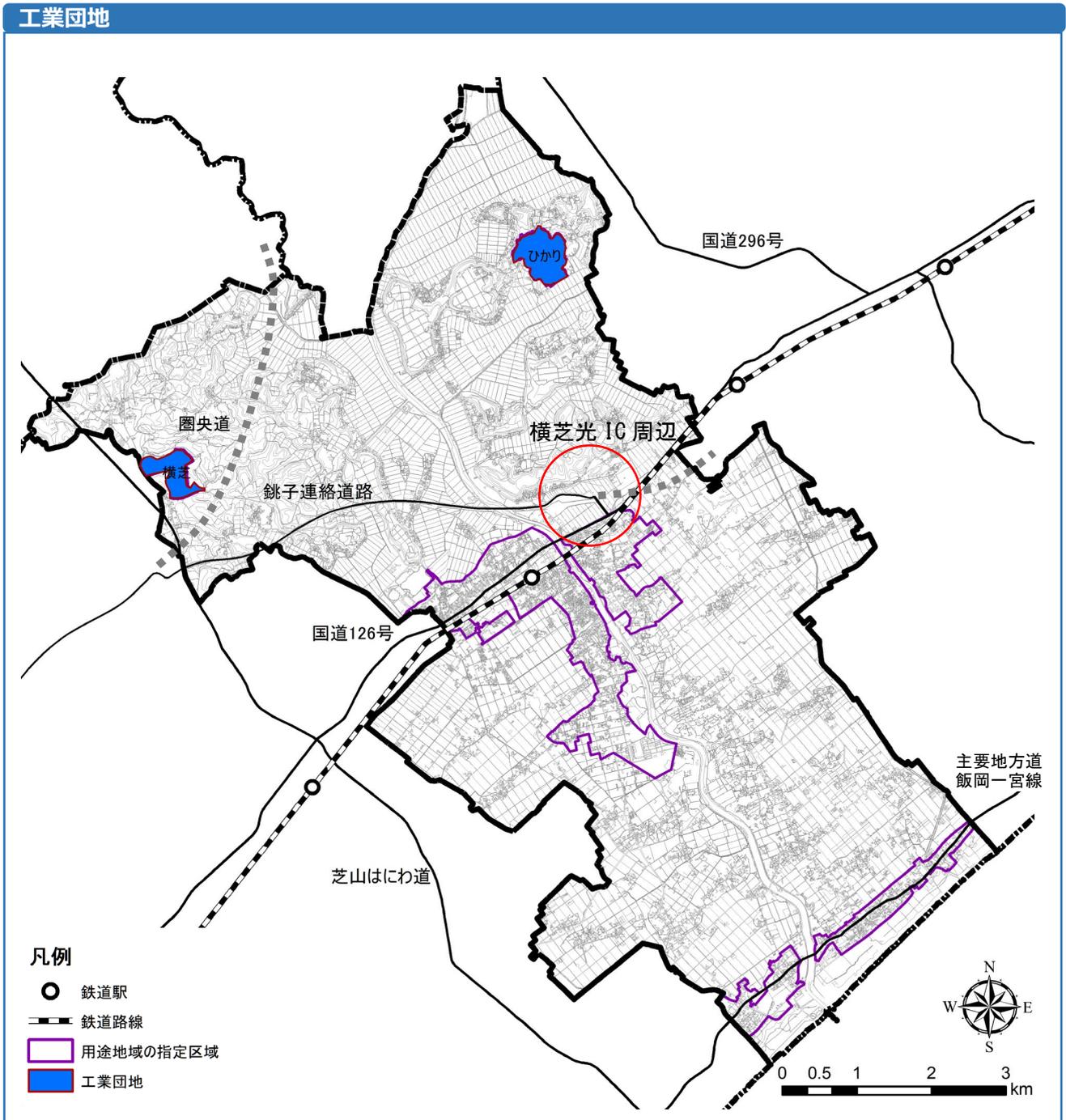


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

⑤ 工業団地

本町では、横芝工業団地とひかり工業団地が整備されています。今後、圏央道の大栄インターチェンジから松尾横芝インターチェンジ（以下、「松尾横芝 IC」という。）区間の開通や成田空港の更なる機能強化により、企業の立地ニーズが高まることが想定されます。

また、銚子連絡道路横芝光インターチェンジ（以下、「横芝光 IC」という。）周辺においては、複合的な土地利用への転換が検討されています。

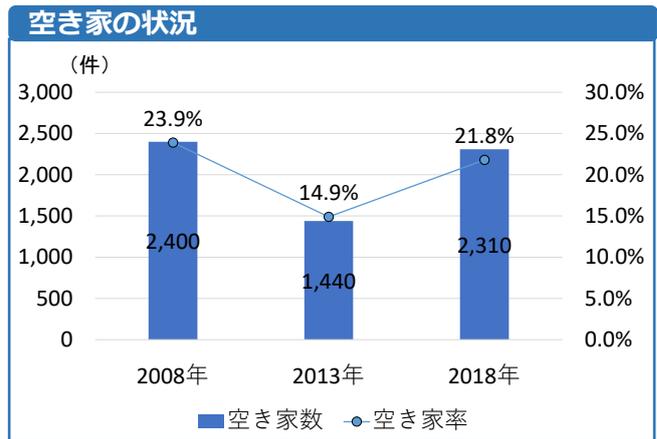


⑥ 空き家・未利用地

5年に1度国が実施している住宅・土地統計調査の結果を見ると、本町の空き家数及び空き家率は、2013年から2018年にかけて大きく伸びています。

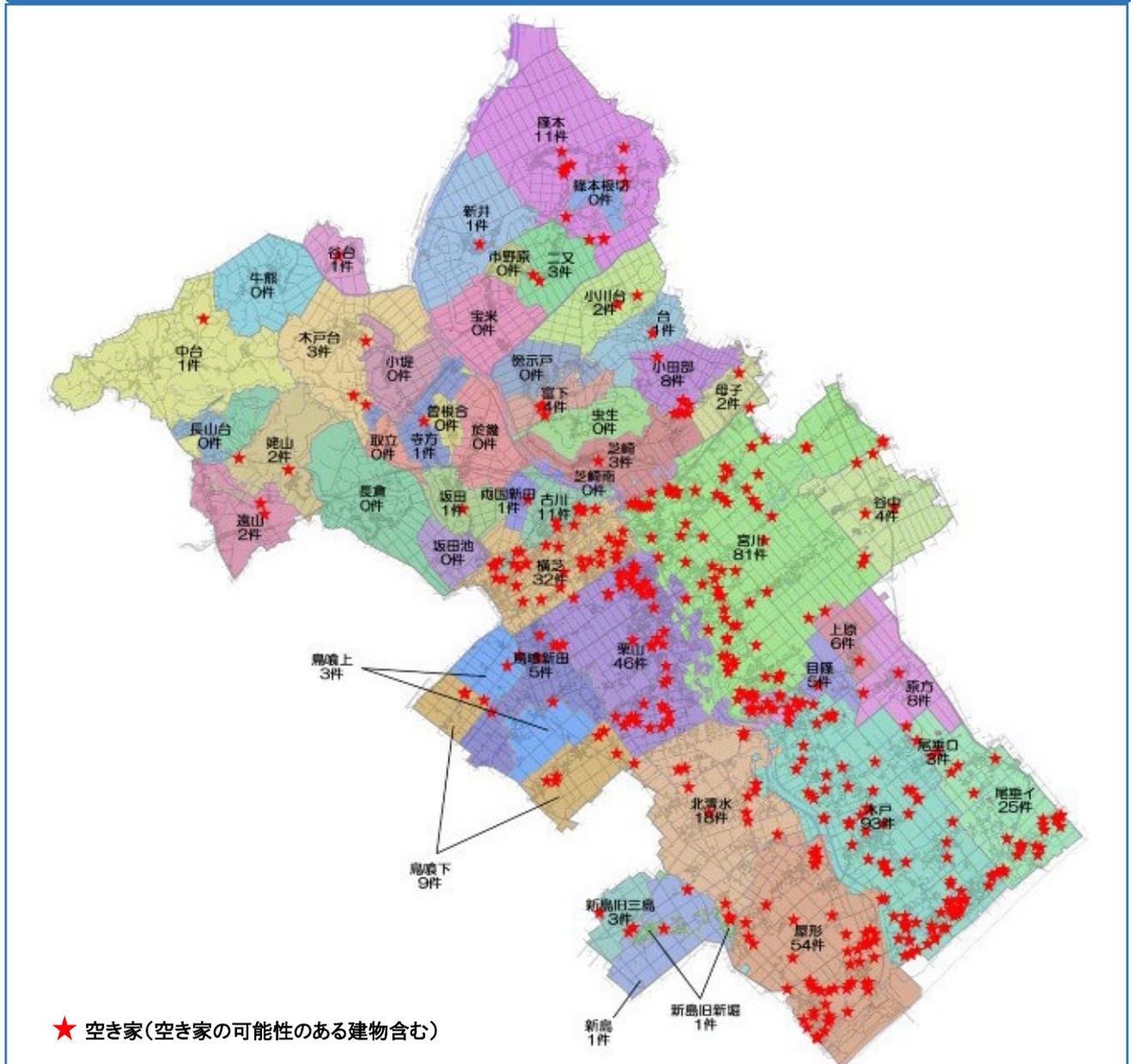
また、平成29年度に本町が実施した横芝光町空家等実態調査の結果から、空き家は用途地域が指定されている既存市街地に多く分布していることがわかります。

また、都市計画基礎調査による土地利用現況を見ると、未利用地（空地・未舗装地）が町全体に広く分布していることがわかります。



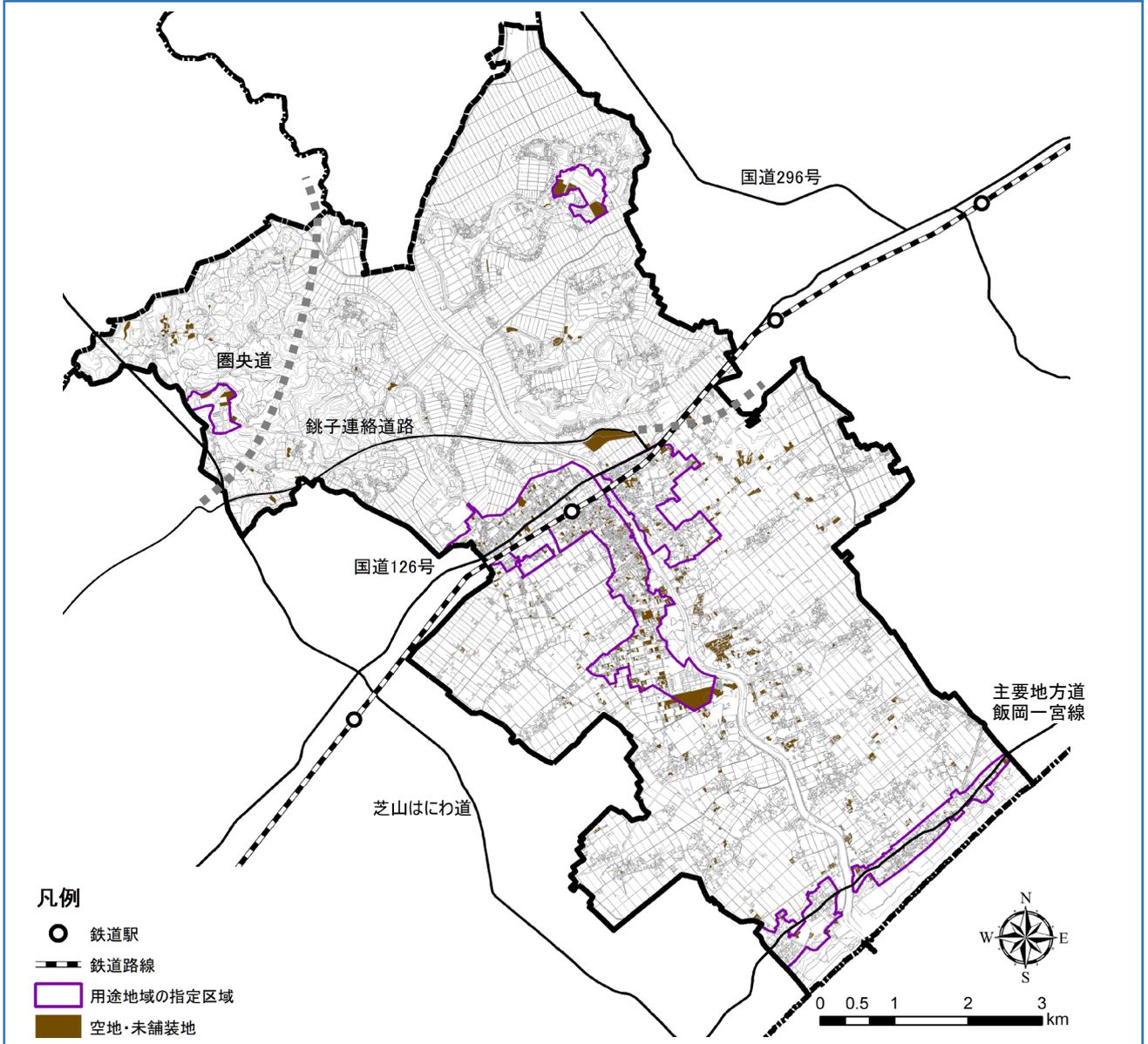
出典：住宅・土地統計調査より作成

空き家の分布状況（平成30年3月時点）



出典：横芝光町空家等対策計画

空地・未舗装地の状況（2015年）



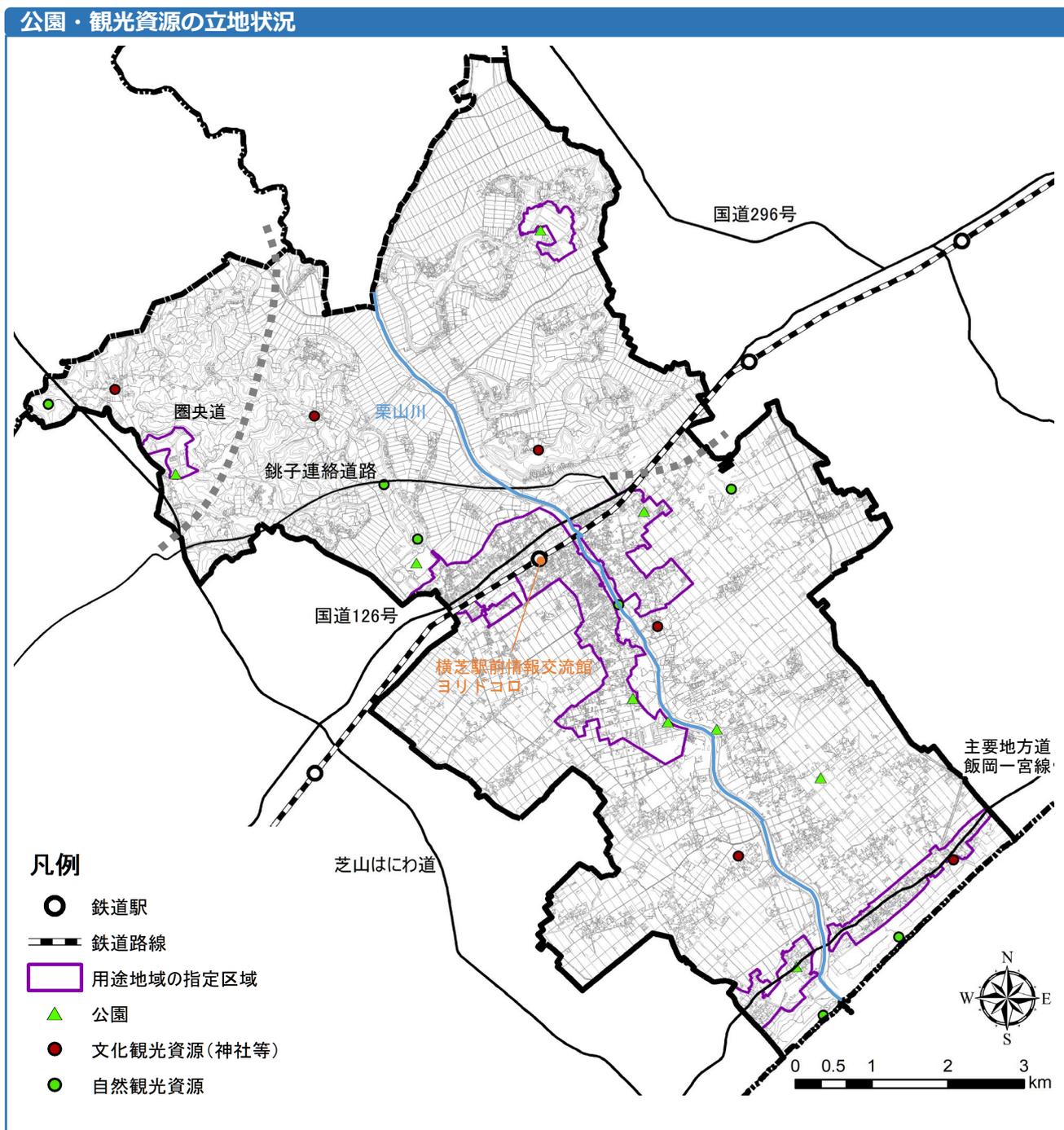
出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

(3) 自然的土地利用

① 公園・観光資源

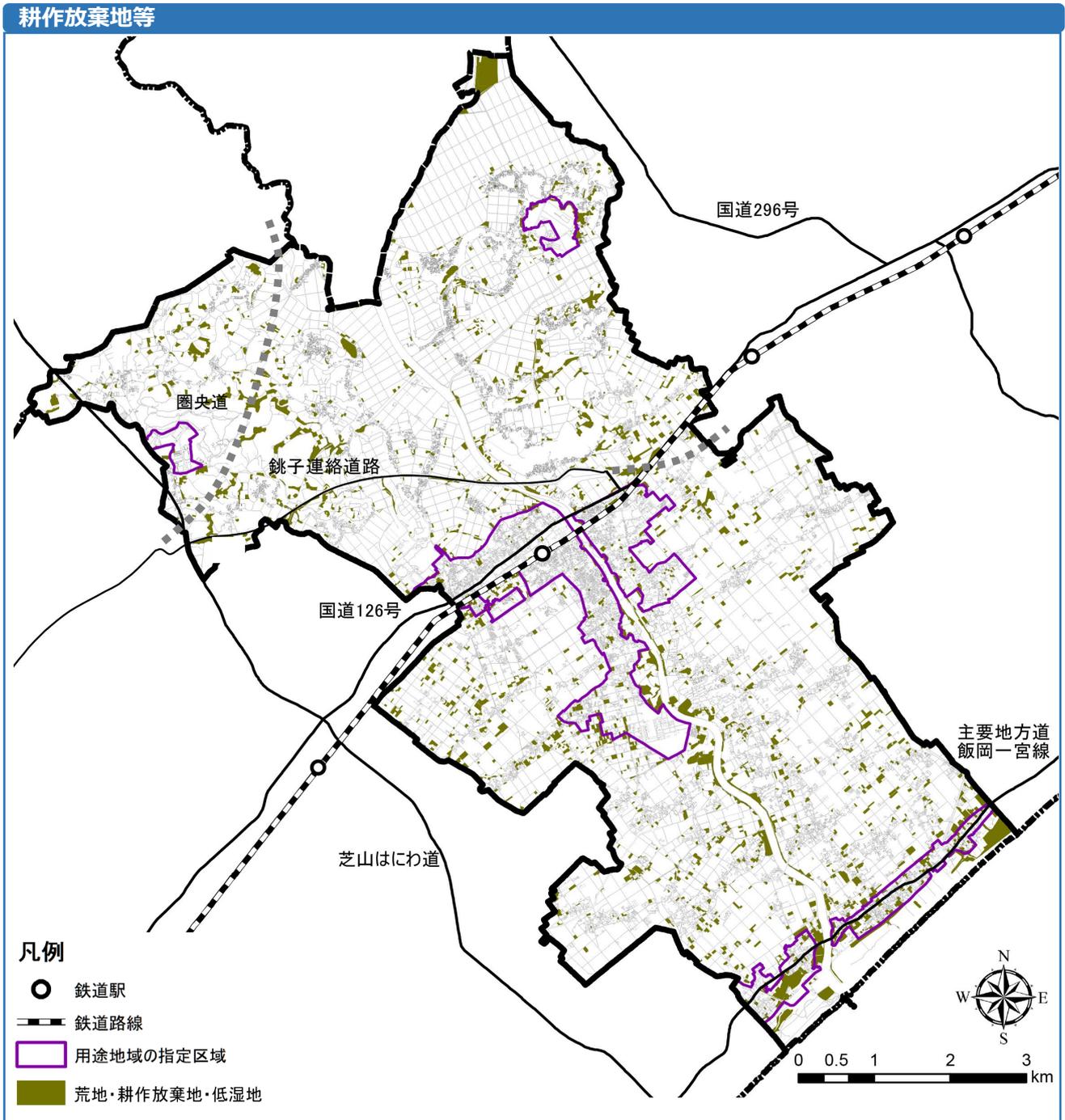
本町では、海浜が県立九十九里自然公園に指定されているほか、水と緑の調和するふれあい坂田池公園やマリニピアくりやまがわ、歴史・文化的要素を活かした栗山平和公園や光文化の森公園、スポーツを楽しめる光スポーツ公園など、バラエティに富んだ公園が整備されています。

また、地域の自然や歴史・文化的資源を活かした観光・交流イベントが行われており、初日の出、栗山川のカヤックや釣り、坂田城跡の梅まつり、海水浴、サーフィン、鬼来迎などが、観光客を集めています。横芝駅前情報交流館「ヨリドコロ」の設置により、観光事業の推進環境が整えられています。



② 耕作放棄地等

本町では、農業振興地域が指定されているものの、農業の担い手不足により近年は耕作放棄地が増加傾向にあります。



出典：都市計画基礎調査、国土数値情報より作成

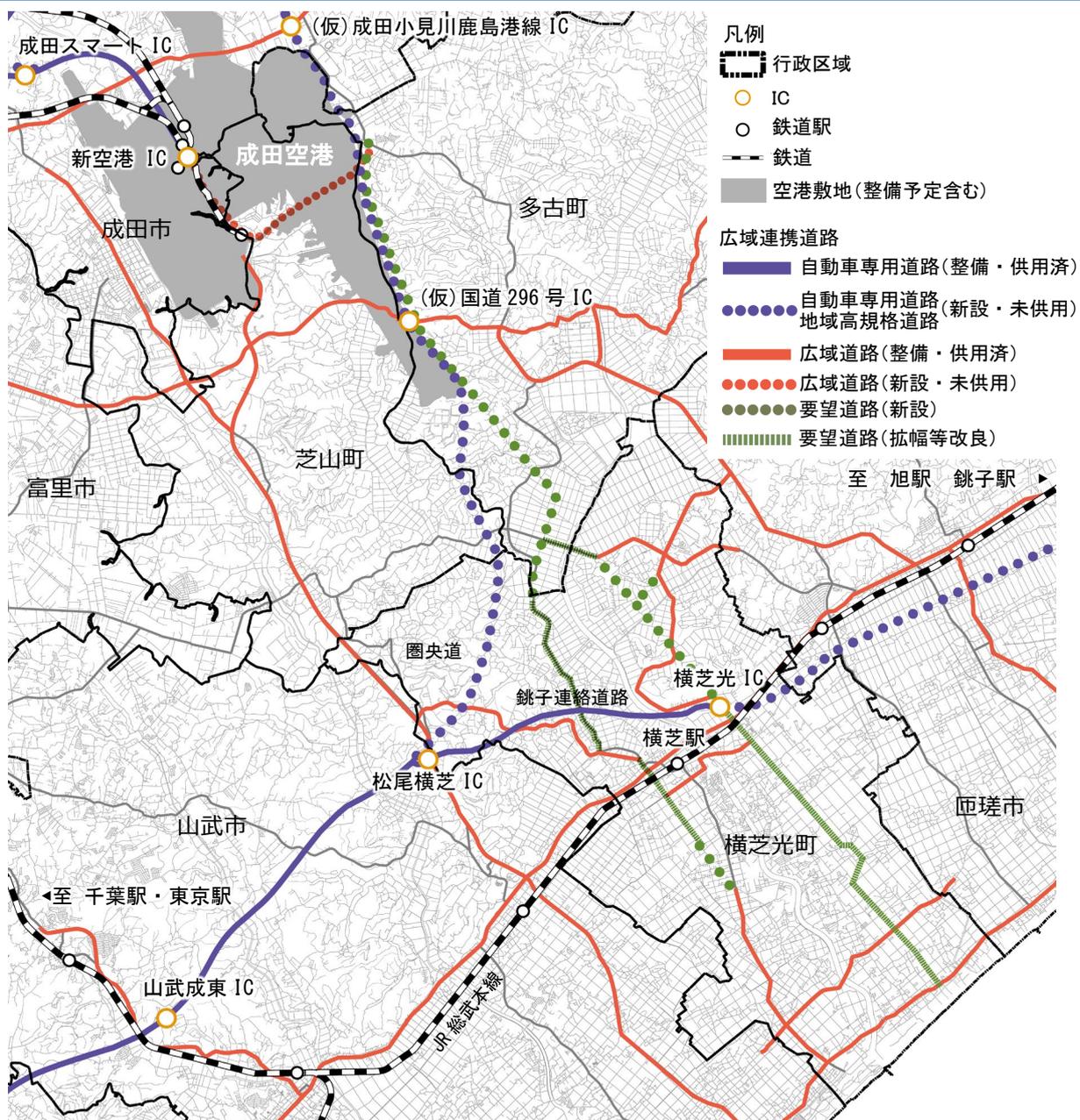
4 交通体系

(1) 広域道路・鉄道網

広域交通を結ぶ鉄道としては、JR 総武本線があり、横芝駅から千葉駅まで普通列車で約 1 時間、東京駅まで特急列車で約 1 時間 10 分で連絡しています。広域的な幹線道路としては、国道 126 号、圏央道、銚子連絡道路などがあります。圏央道や銚子連絡道路の延伸により、広域ネットワークの飛躍的な発展が期待できます。

国道 126 号や鉄道により、町の東西を繋ぐ交通ネットワークは確保されているものの、町と北部（成田空港方面）を繋ぐネットワークが弱い状況にあります。こうした状況の中、町では持続的な発展に向け、国、千葉県、成田国際空港株式会社に対し成田空港へ直結する道路整備の要望をしています。これにより横芝光 IC 周辺は国道 126 号、成田空港へ繋がる幹線道路、銚子連絡道路が交差する広域交通の結節点となることから、都市的土地利用のニーズが高まることが想定されます。

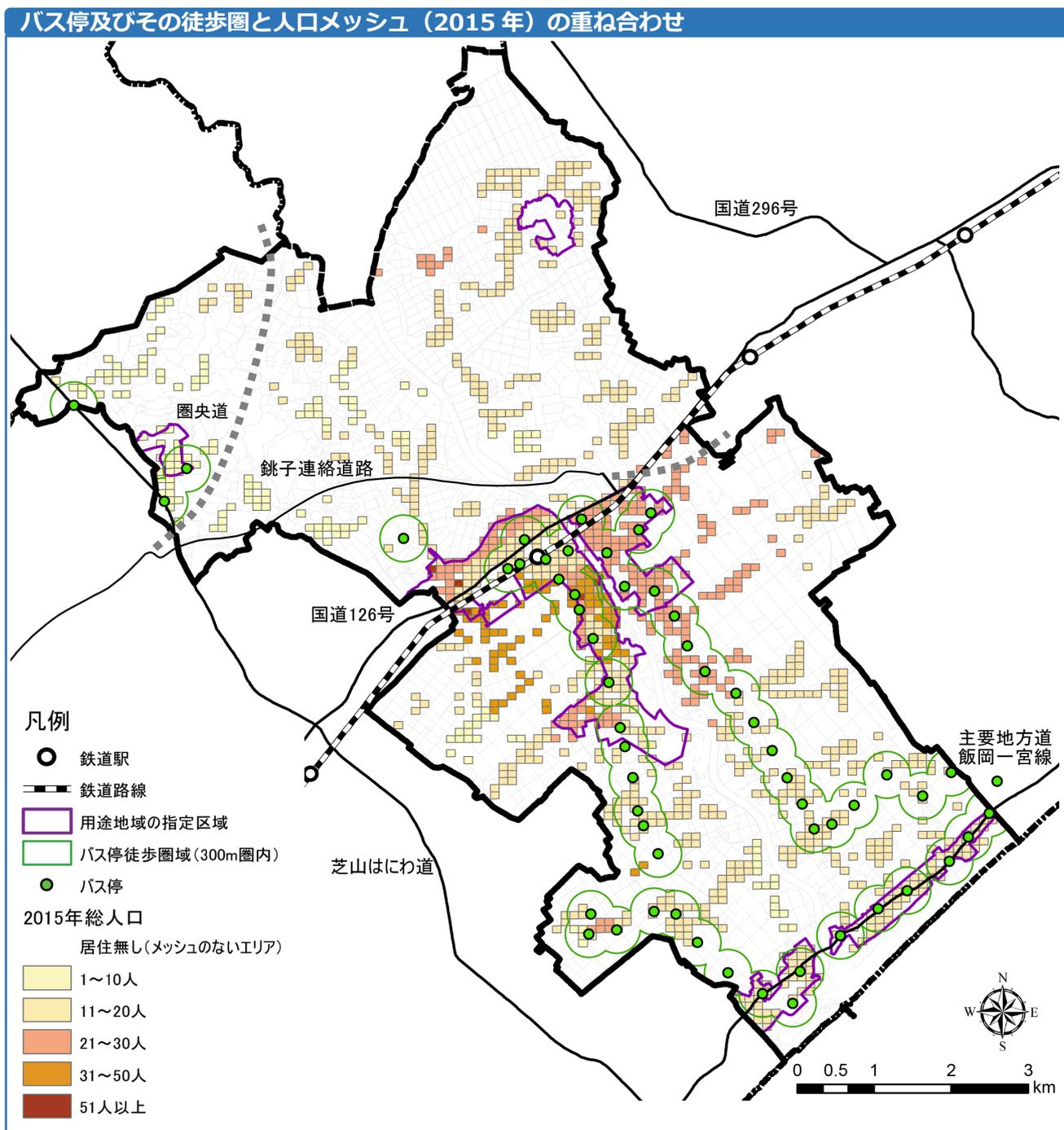
広域道路・鉄道網（要望道路含む）



(2) バス路線網

バスルート及びバス停の設置状況を見ると、人口が集中している用途地域内の市街地においては、バス停が多く位置しており、300m 圏内（徒歩5分程度）に含まれています。持続的な運行に向けては利用者の確保が課題となります。

広域の路線として、横芝光号成田便及び空港シャトルバスが運行しています。今後成田空港の更なる機能強化により、成田空港方面を繋ぐ路線のニーズが高まることが想定されます。

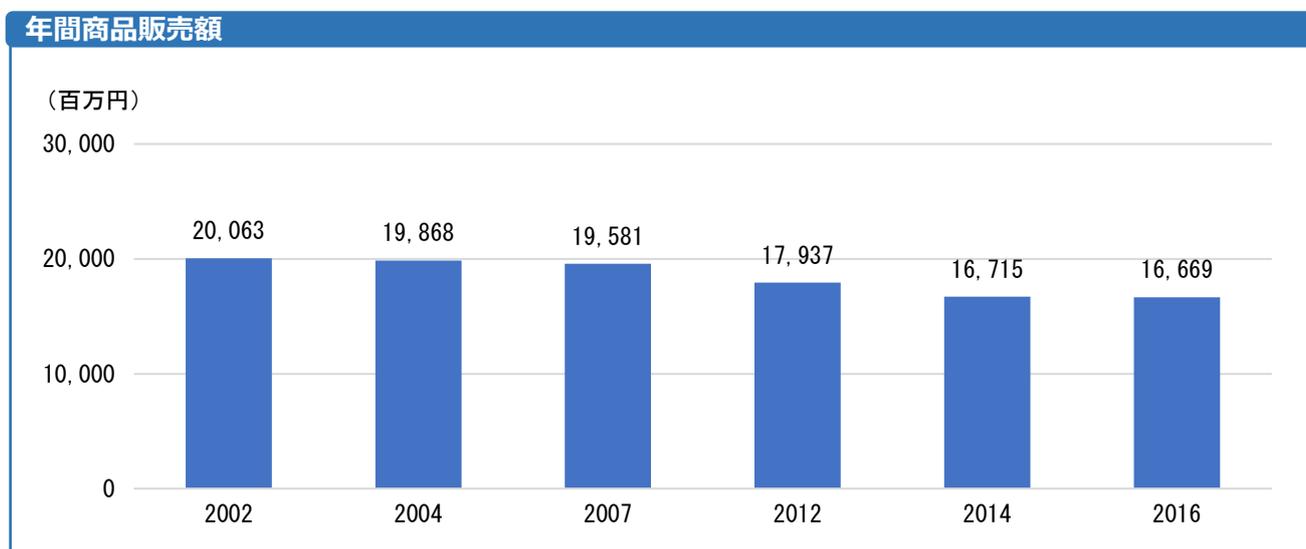


出典：都市計画基礎調査、国土数値情報、G 空間情報センター 将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版) より作成

(2) 経済

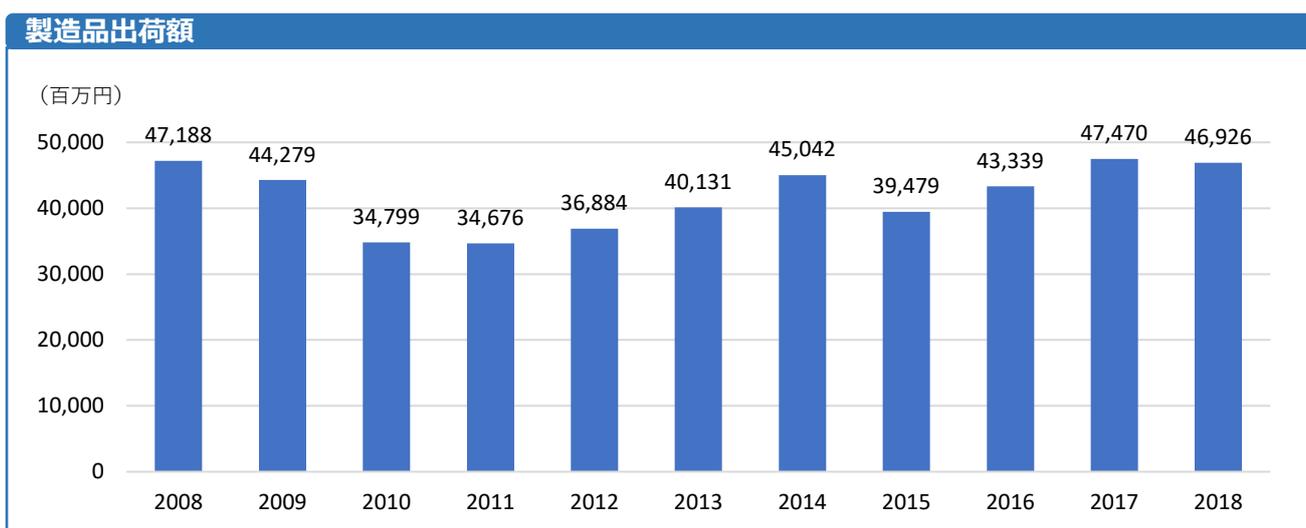
① 商工業

本町の小売業事業所における年間商品販売額の推移を見ると、2002年以降現在まで減少傾向が続いており、2004年には200億円を割り込んでいます。



出典：商業統計調査より作成

本町の製造業事業所における製造品出荷額等の推移を見ると、2008年から2011年にかけては減少傾向が続いていましたが、その後は増加傾向、2013年から2018年は増減を繰り返しています。

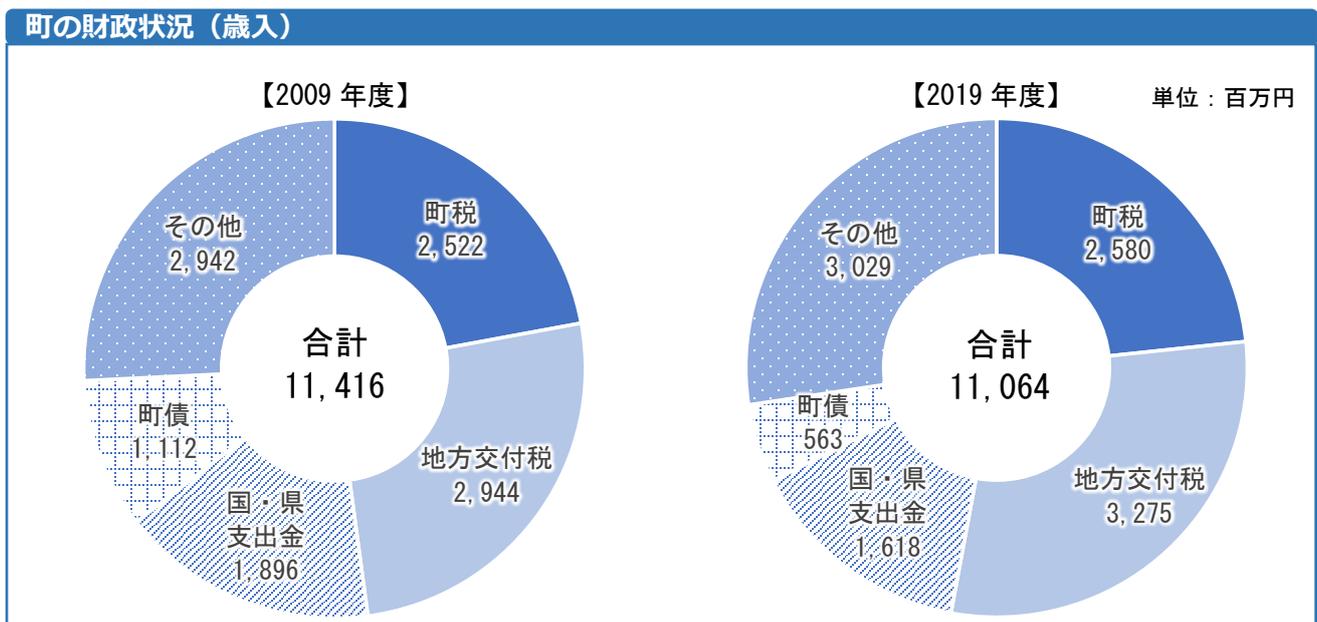


出典：工業統計調査より作成

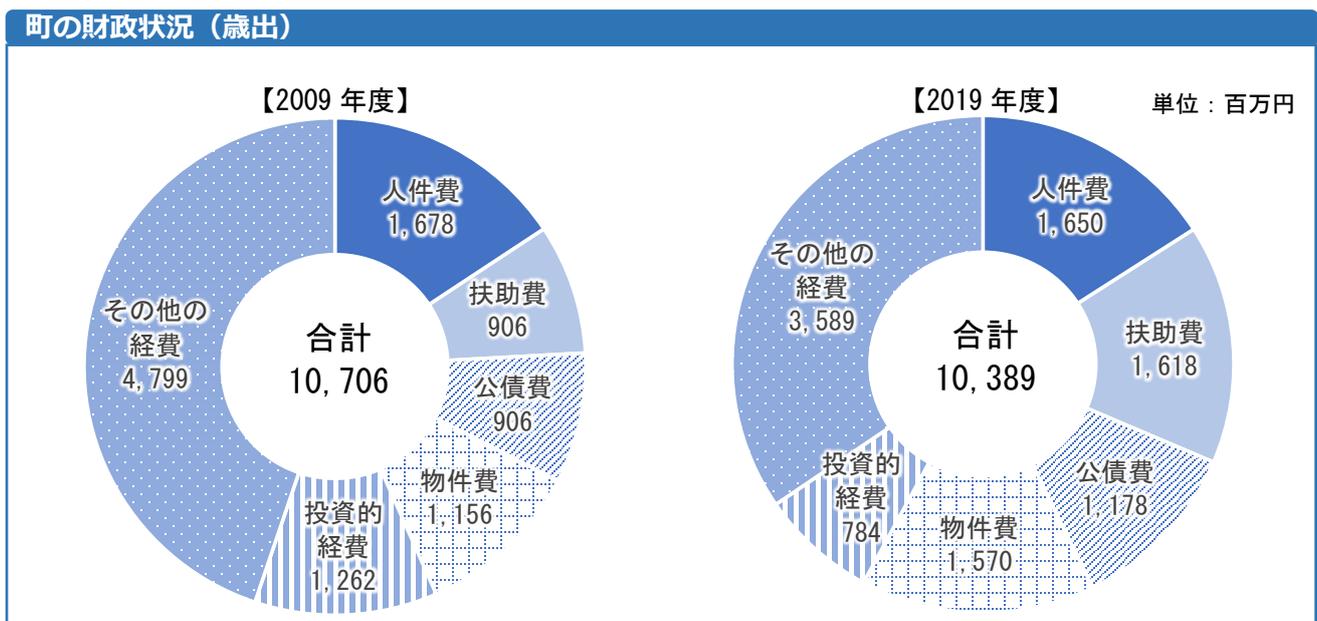
③ 財政の状況

2009年度と2019年度の財政状況をみると、歳入、歳出ともに100億円前後であり、10年間同水準で推移しています。歳入のうち自主財源である町税収入について25億円程度を維持しています。歳出のうち義務的経費である扶助費が増加している一方、公共施設の更新等に必要な投資的経費は減少しています。

今後、生産年齢人口の減少により、町税収入の大きな伸びは期待できない一方で、高齢化による保険・医療・福祉など扶助費の更なる増加や公共施設等の老朽化に伴う維持管理・更新等に係る経費の増加等が見込まれるため、財政健全化が大きな課題と考えられます。



出典：決算カードより作成



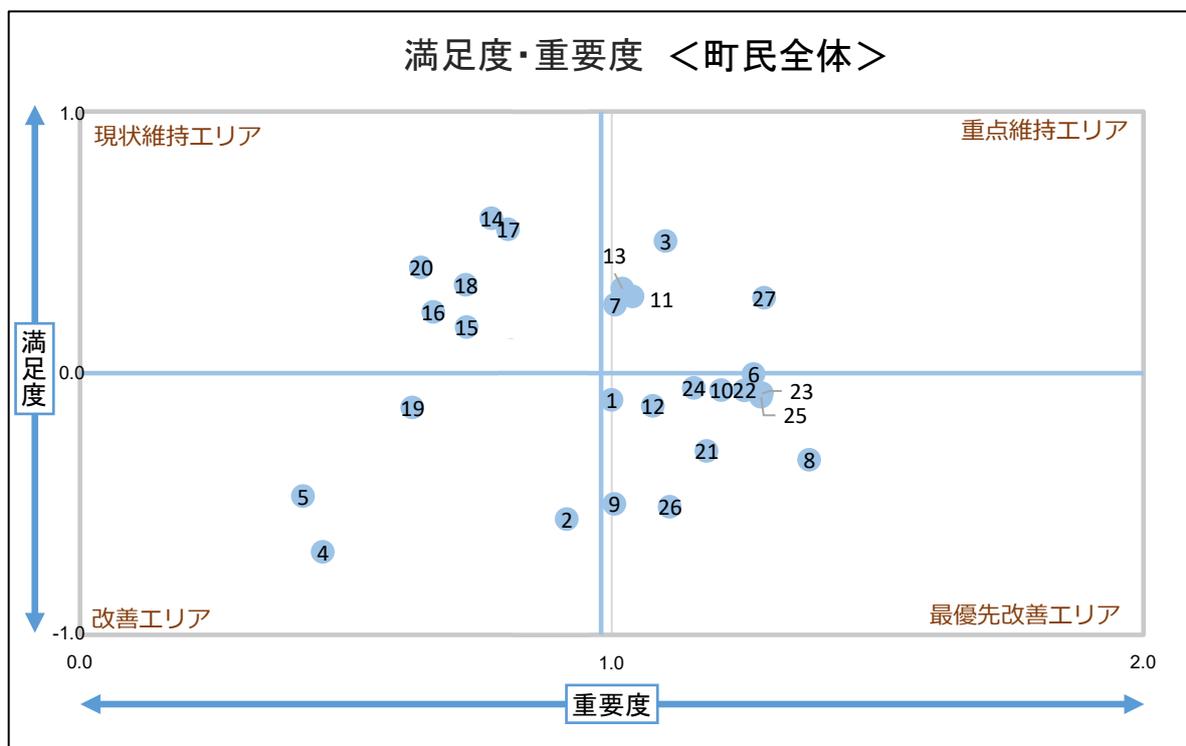
※「百万円」単位で繰り上げ、繰り下げを行っているため、合計の数値と各項目の数値の合計が合わない場合がある

出典：決算カードより作成

6 住民意向

横芝光町まちづくりアンケート調査（令和2年度）

- 満足度・重要度ともに比較的高い項目（重点維持エリア）は、「3. 自動車での移動しやすさ」、「11. 上水道の整備」、「27. 居住環境全般（総合的な住みやすさ）」などである。
- 満足度は比較的高いが、重要度は低い項目（現状維持エリア）は「14. 図書館など文化施設の整備」、「18. 自然的景観の美しさ」、「20. 宅地の広さやゆとり」などである。
- 満足度が比較的低いが重要度は高い項目（最優先改善エリア）は、「8. 病院など医療福祉施設の充実」、「21. 騒音・悪臭などの公害対策」、「25. まちの防犯対策」などである。
- 満足度・重要度ともに比較的低い項目（改善エリア）は、「4. 路線バスの運行本数」、「5. 路線バスのルート」、「19. 街並み景観の美しさ」などである。



① 利便性		② 都市基盤	
1	通勤・通学の便利さ	14	図書館など文化施設の整備
2	鉄道の利用しやすさ	15	広場や公園などの遊び場
3	自動車での移動しやすさ	16	運動・スポーツ施設の整備
4	路線バスの運行本数	17	緑や水辺などの豊かな自然環境
5	路線バスのルート	18	自然的景観の美しさ
6	買い物の便利さ	19	街並み景観の美しさ
7	役場など行政窓口の充実	20	宅地の広さやゆとり
8	病院など医療福祉施設の充実	21	騒音・悪臭などの公害対策
9	就業環境・雇用の場の充実	22	交通安全対策
10	生活道路の整備	23	水害に対する防災対策
11	上水道の整備	24	土砂災害に対する防災対策
12	排水施設の整備	25	まちの防犯対策
13	学校など教育施設の整備	26	空き家などの管理及び抑制対策
		27	居住環境全般（総合的な住みやすさ）

